

# だ み よ く り に

No.748 令和 6 年 4 月 1 日発行



## すべての出会いを結んで

ご入園、ご進級おめでとうございます。

皆さんは、自分が置かれている状況や気持ちと歌詞が合致する歌がふと頭の中に流れたこと、ありますか。私事ですが、つい先日ありました。「心が今穏やかなのは この日を迎えられた意味を……」この歌詞が頭の中に流れてきたのは、3月9日の帰り道。歌詞からびんときた方もいらっしゃるかもしれません。よく結婚式で使われる曲ですので、おそらく作詞家さんの意とは少し違う意味で流れてきました。この日は第69期生の卒園式。当日はきれいな晴天。第69期生の皆さんはコロナ禍の休園措置や新園舎建て替えなど、様々な変化にも常に温かいご理解とご協力をくださった学年です。「卒園するまで絶対安全に」という想いをいつも以上に強く抱いていたここ数年間。この学年の卒園を無事に迎えることができ、数年分の安堵を感じたのかもしれない。この歌が頭の中に流れてから3週間が経ち、ゆるやかな気温の上昇とともに、桜の開花を迎えようとしています。

さて、桜の開花とともに、新たに令和6年度の始まりです。保護者の皆さまどうぞよろしく願いいたします。子育てはとても尊いものです。そのため今、色んな想いを抱えていらっしゃると思います。これまでの子育てに加えて、ご入園やご進級に対しての不安、心配、喜び、期待……。まずは、子育ての一つの節目として、ここまで子育てなさってきたご自身に大きな拍手を送ってください。ご入園、ご進級を迎えられたこと、すばらしいです。子育てで一番大切なのはご家庭です。これからは一緒にお子さまの成長を見守っていきます。

そして、新しい環境になり、不安な気持ちや戸惑いを抱えるのは、お子さまも同じです。泣いたり怒ったりわがままを言ったりするなど今までになかった様子が見られた時には、不安、戸惑いといった意味が込められているかもしれません。心苦しく悩まれたときは、もしよろしければこの言葉を思い出してみてください。日本の保育学者

津守真さんが夫である津守房江さんという方の言葉です。

「抱くという字は手偏に包むと書きます。抱くことは手で包むことですから、人のやさしい気持ちもその中に含まれていることでしょう。手をかけ心をかけられた幼い子どもの心の中に育つものは、自分の存在についての安心感や人への信頼感です。-中略- 子どもが抱っこをねだったり、甘えてきたとき、甘やかしになるのではないかと心配する人もいます。「甘やかす」、という言葉は否定的なひびきをもった言葉で、その結果わがままになると短絡的に考えやすいのです。しかし本来「甘える」という言葉の中には、幼いものが他を信頼して頼るという意味も含まれています。幼い子どもが他者を信頼することは、生きていくために与えられた大切な宝です。人を信頼することによって、待つことも、我慢することもできるようになっていきます。自分がよいと思う方を選ぶ力のもと=主体的な生き方のもととなることでしょう」

津守さんの温かい言葉とまなざしは、大切なことをはっと気づかせてもらえます。まだまだ成長途中の子どもたちです。言葉にできない子どもの心情をこのように捉えてみると、もしくはこのようなまなざしで見えてみると、ご自身の助けになるかもしれません。子どもが大きくなっていく過程の中で、保護者の方からすると「どうしよう」「困った」「大変だ」などという壁や変化は訪れるものです。それでも「今」の積み重ねが人としての基礎につながりますので、「今」の姿や気持ちに心を向けることが大切です。保護者の方お一人お一人とともに、お子さまへの想いを共有し、成長に気づき、喜び合い、時にはともに考える存在でありたいと思います。

さて、新年度、子どもたちがどんな表情で登園し、これからどんな姿が見られるか楽しみでなりません。そのためにも、職員一同背筋を伸ばし、子どもたち一人ひとりを大切に、日々丁寧に過ごしてまいります。

春は環境が変わり、心身ともに負担や疲れが出やすい時期です。どうかお体にお気をつけください。